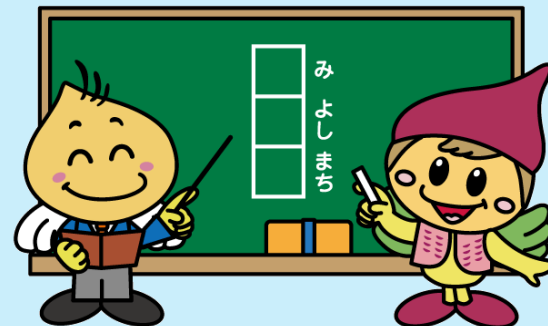


学校再編ニュースレター

三芳町小中学校 再編計画(案)の 策定について

令和7年5月

三芳町教育委員会



はじめに

- 近年では、少子高齢化の流れから学校の小規模化が進んでいます。
- 小規模校には、きめ細やかな指導や人間関係が深まりやすいなどのよさがある一方、集団の中で多様な考え方に触れたり切磋琢磨する機会が少なくなる、また、人間関係が固定化しやすくなる等の課題もあります。また、中学校においては、学級数の減少により、全ての教科で専門の免許を有する常勤の教員が配置できない事態も想定されます。
- 子どもたちの資質や能力は、多様な人々と関わり合い、様々な経験を重ねることにより育成されます。
- 三芳町の特色ある教育をより一層推進し、実現するためには、一定の学校規模が必要と考えます。
- 三芳町教育大綱の基本理念である、「誰もが幸せに生きる夢の実現に向けて」より良い未来を築くために、相互に多様性を認めあい、すべての子どもの可能性を引き出すような学び、次世代を見据えた教育を推進していきます。

- 学校再編については、これまで学校再編検討委員会で5回の会議を行い、「適正規模適正配置の報告書」を作成し、「適正規模適正配置基本方針」を策定しました。
- その方針を基に、学校再編等審議会において、全11回の会議を行い、議論を重ねてきました。
- 学校再編等審議会では学校再編の方向性について答申をいただき、町教育委員会ではこれを基に「三芳町小中学校再編計画」を策定していく予定です。
- 計画策定にあたり、上富小学校保護者と上富小学校区未就学児の保護者については、農業センターで2回、上富小学校で3回、各中学校区保護者への説明で3回、地域の方への説明として町内公民館にて3回の意見聴取会を開催し、多くのご意見をいただきました。
- 町の将来を担う子どもたちにより良い教育環境を実現するため、保護者の皆様の意識調査を実施させていただきたいと思います。

1. 学校再編の方向性 ～学校再編等審議会答申～

三芳町学校再編等審議会(以下、「再編等審議会」という)では、統廃合の是非について、子どもへの教育効果を第一として協議を重ね、下記のとおり答申をいただきました。

この答申を基に、三芳町小中学校再編計画(案)を策定します。

- ・ 上富小学校を三芳小学校に令和10年度を目途に統合する。
- ・ 竹間沢小学校の再編については保留とする。
- ・ 三芳町立各中学校の再編については保留とする。

2. 学校再編等審議会の答申

「上富小学校を三芳小学校に令和10年度を目途に統合する」

- 上富地区はほぼ全域が市街化調整区域であり、今後の住宅開発や人口増、それに伴う児童増が見込まれにくい状況です。
このことから、上富小学校は令和10年度を目途に再編できるよう準備を進めていく必要があると考えています。

上富小学校の児童数・学級数の将来推計

	R7	R8	R9	R10	R11	R12
1 年	1(12)	1(12)	1(16)	1(14)	1(5)	1(13)
2 年	1(16)	1(12)	1(12)	1(16)	1(14)	1(5)
3 年	1(14)	1(16)	1(12)	1(12)	1(16)	1(14)
4 年	1(20)	1(14)	1(16)	1(12)	1(12)	1(16)
5 年	1(19)	1(20)	1(14)	1(16)	1(12)	1(12)
6 年	1(9)	1(19)	1(20)	1(14)	1(16)	1(12)
児童数計	90	93	90	84	75	72

- 上富小学校については、令和7年4月時点で全校児童数90人、令和11年度入学予定者数が5人で全校児童数は75名と見込まれています。
- 統合の形としては、校舎の規模や人数を考慮し、上富小学校を三芳小学校に統合することとします。
- これにより、上富小学校区の児童の通学距離が大幅に伸びることが想定されるため、スクールバスの導入など、児童の過度な負担にならない通学方法については、今後十分に検討してまいります。

※()内は児童数、左の数字は学級数。令和7年4月1日現在。

3. 学校再編の未来のカタチ①

学校再編により期待される効果

～小規模校を解消することで見出せる可能性～



人間関係の固定化の解消
クラス替えが可能
男女比のバランス



協働的な学習が充実して
多くの意見や考え方に触れ
多面的に物事を考えられる



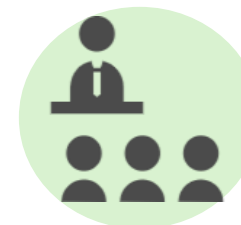
多様な種目や形態での
集団活動
体育・音楽・学校行事など



児童生徒から多様な
発言を引き出して
授業展開ができる



クラブ活動や委員会活動
児童生徒の興味関心に
応じた活動の場の確保



習熟度別学習など
多様な指導形態を
とりやすい

4. 学校再編の未来のカタチ②

学校再編について配慮すべき事項

配慮事項	対処方法
通学路の変更、通学距離が遠くなる、安全性の確保	児童の安全を第一に、スクールバスの導入を検討
心のケア	統合校同士の交流活動の展開、保護者の交流の機会、統合後の学校において教職員人事の配慮、いじめや不登校対応、教育相談体制の更なる充実など
放課後の居場所づくり	放課後の時間の確保についても継続して検討する
1クラスの児童生徒数が増える きめ細かい指導	児童生徒数の増加が教員の定数増加につながる 少人数指導や教科担任制など、加配数も増えていくことで サポートが充実する面がある
特色ある教育活動	豊かな体験活動を通じて互いの良さを生かし、特色ある教育活動を検討する
統合に伴い生じる体操着等の学用品 の統一	学校指定の物品等は、保護者に多大な経済的負担が生じないよう配慮し、未就学児の保護者を含め早めに周知する
学校施設や土地の利用方法	地域活性化のための活用など、町全体で検討を進める

5. 学校再編の未来のカタチ③

学校準備委員会の設置

学校を統合するには、様々な検討が必要です。通学体制や学用品、PTA組織などの様々な検討事項について、3つの検討部会を設置し、検討していきます。

